

— 第百拾五号 —

(2011年冬号)

日本赤十字社より褒章

3・11の東日本大震災から早、9ヶ月以上も過ぎてしまいました。支援の輪も小さくなり、当時の気持ちも徐々にしぼみかけているようです。私たちも幸楽窯社長徳永君の発案で元気皿を作成し、売上の一部を義援金として贈りましたが、このたび赤十字社から思わぬ盾をいただきました。私の父の代から赤十字社へ強い関心をもって関わり続けていましたので、今回大きな賞をいただいたのでしょうか。これからも身の丈に合った支援活動を続けていきたいと思っています。

また、“NEVER FORGET 東北”をスローガンにして、俳優柴俊夫さんが主宰する一般社団法人「こどものための柴基金」によるポストカードやTシャツ等の寄付金付きグッズの販売が、銀座TSビル（中央区銀座5-2-1）で行われています。土・日曜日開館ですので、是非ご来場下さい。先日会場を訪れてびっくり。しん窯から岩手県田野畑村へ贈った食器群もテーブル上にありました。来訪者の質問があって、しん窯青花と田野畑村の関係や、しん窯青花工房の紹介をして下さいという嬉しい依頼を受けて、DVDを届けました。

瓦版百拾弍号でも紹介していますが、素敵な人脈によって東日本大震災の復興支援ができて、とてもありがたいと思います。心豊かな柴・真野様ご夫妻をはじめご縁をいただいた皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。



日本赤十字社より
銀色有功章が贈られました。

MAYちゃん職場研修

タイからMAYちゃんがやってきました。名前はカモンチャノック・パヌウェトと申します。長くて難しく覚えきれないので、MAYちゃんと呼んでいます。1988年5月2日生まれですからMAYちゃんです。去年国立コンケン大学建築学部工業デザイン科（セラミック専攻）を首席卒業しました。彼女の日本への志望動機を紹介します。

日本への志望動機：

私が生まれ育った、ナコンラチャシマ近郊のダンキアン市は、タイ東北の陶器で有名な街です。

殆どのダンキアンの陶器は、うわ薬を使わず、アクリルカラーで塗られた、装飾品の土産物です。多くの有能な陶芸家や、この地で産出する粒子が細かく褐色の素晴らしい陶土が有るにも拘わらず、安っぽい物しか生産していません。私は、生まれ故郷のダンキアンを20年以上見てきましたが、この問題は、全く解決されていません。すなわち、この地の製品は全く多様化していません。どの店も同じデザインの同じ商品売っています。私の知る限りでは、日本の陶器は、ユニークで高額な物が多いです、そして、世界中で人気を博しています。私は、もっと勉強して、私の町の陶器を発展させたい。その為には、もっと技術や製造工程を学ぶ事はとても重要です。デザイン、技術、窯入れ、焼き方、日本の窯など、日本の陶器関係者から学びたい事がたくさんあります。

更には、日本の社会や、文化を学ぶことも重要です。加えて、私は、多くの人日本人の方たちと協力して学び働きたいです。もし、日本で学ぶ機会を頂ける事が出来るなら、さらなる日本とタイ両国関係を築ける人間になるよう努力します。

もしこの機会に知識や技術を学ぶ経験を積む事が出来たら、今後の私の陶芸人生に、大いに生かせると考えています。また、得られた知識を基に、タイの陶器の短所の解決と興味のある人々や特に子供たちへと継承できるようにしたいと考えます。

しん窯は国際的な工房になりました。以前はブラジルから、そして有田・マイセンの国際交流員の皆さんが陶芸教室に通ってきます。一日も早く英会話をマスターして、世界中に友人・知人を作りたいと切望しています。



毎日寒いですが、
元気に頑張っています！

by MAY

今年の十大ニュース

1. 3・11未曾有の東日本大震災
2. 橋口博之作陶展 in 三越日本橋本店
地震にもめげず、予定通り3/16(水)～22(火)開催
3. スターバックスジャパン(株)創業者角田雄二兄と30数年ぶり電話で再会
4. 女優の真野響子さんの鶴の一声「有田の出番がきたわよ！」で
岩手県田野畑村へ食器群200戸分を発送。
5. 真野さんのご主人柴俊夫様主宰のこどものための柴基金やクラブオーストラリアの支援で、田野畑村産業開発公社からアイスクリームとヨーグルトがどかーんと贈ってくる。
6. 絵本作家あきびんごさん再度来訪。
7. 若者達が発案行動している第二のふるさと創生会創立に向けて、話題の武雄市長樋渡啓祐氏を訪ねる。
8. 有田焼創業400年事業公募があり、小論文と面接を受け、見事合格
(67才で面接を初体験しました)。
9. 大親友かねぜん会長金ヶ江喜佐男君逝く
10. ほほえみの国タイから、MAYちゃん職場研修(11/1～1/20)

こんな人が来られます

今年の仕事納めは28日（水）です。恒例のこどものためのバレー教室主催の藤崎淳先生から連絡があり、28日（水）に元全日本バレーボール選手大山加奈さんと朝日健太郎さんがロクロ体験にお見えになります。1メートル90センチメートル以上のおふたりですから、彼らがつくるお茶碗はぐい呑かもしれません。

この瓦版も今回115号を迎えますが、くしくも創刊号第1回1999年（平成11年）のこんな人が来ましたコーナーでやはりバレーボール界の重鎮、元オリンピック選手の中垣内祐一さん取材した事が、昨日の事のように。

お会いする日が楽しみです。

こんな人が来ました。田崎真也氏・中垣内祐一氏来訪

去る7月13日、ソムリエ世界コンクール優勝の田崎真也氏が来社されました。

今回は、田崎氏オリジナル商品を作るための来訪で、様々な葡萄絵の食器が完成しました。

去る8月22日に、バレーボール、オリンピック代表の、中垣内祐一氏が来社されました。中垣内氏本人が、ロクロに向かってオリジナルの器を作っていました。

写真は、その時の製作風景です



青花瓦版創刊号より

有田焼創業400年事業実行委員会 第1回専門部会

初めて400年事業実行委員会専門部会が開かれます。町ではすでに4回の実行委員会が開かれ、400年事業の基本構想の素案が承認されたようです。

●事業の方向性

1. 伝統を築いてきた先人の偉業と労苦に感謝する。
2. 有田町をはじめとする肥前地区全体の窯業の振興と発展を図る。
3. 窯業産業を有する国々や地域との交流の更なる活性化を図る。
4. 有田町が有する豊かな陶磁器文化を、日本の誇りとして内外に発信する。

さて、これから私たち町民がどのようにして意識し、行動し、次代に繋げる努力をするかにかかっています。すでにサイは投げられました。私たち専門部会の役割は大きいのです。